資料６

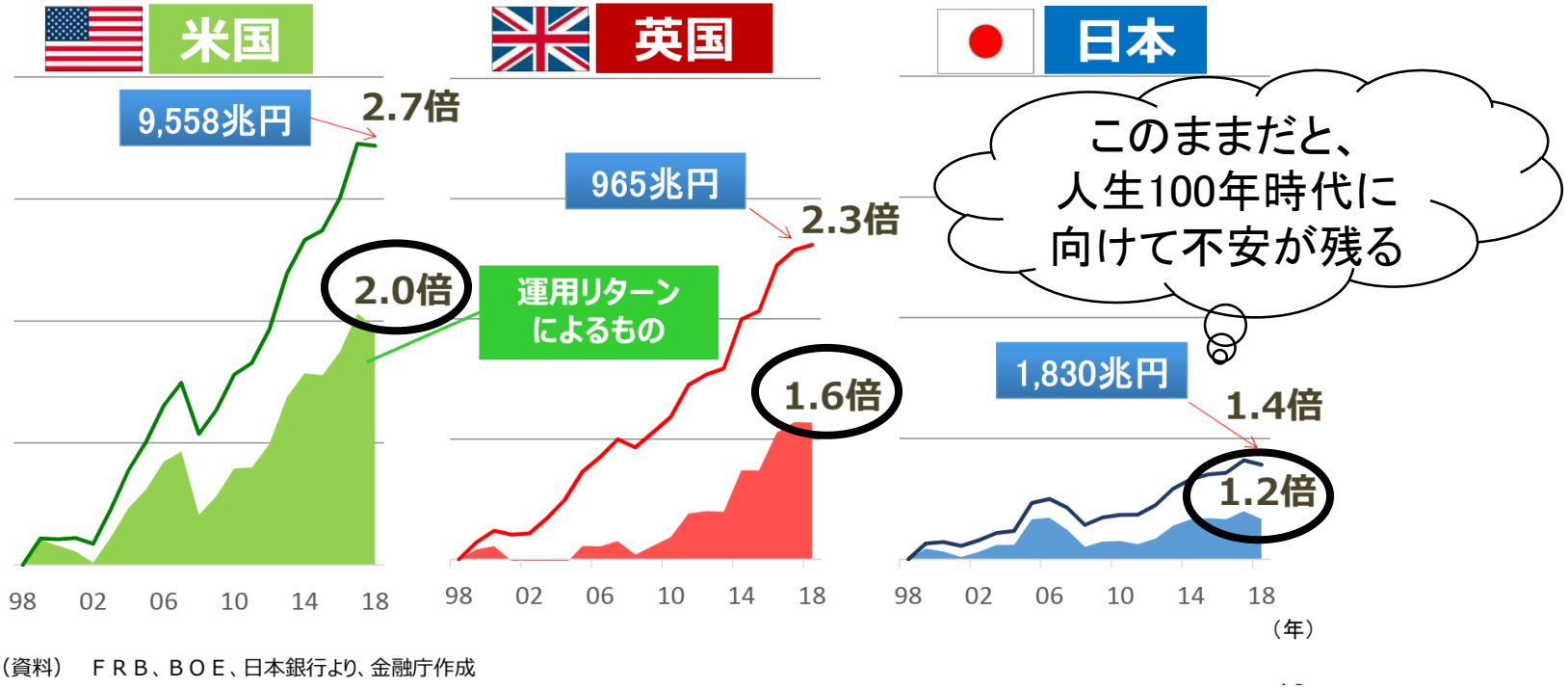
議論用メモ
国内金融市場の活性化とインバウンドに関連して

2021年1月29日
加藤康之

日本の個人金融資産の特徴：
（1）パフォーマンスが低い個人金融資産

日本では運用リターンによる金融資産額の伸びが小さい

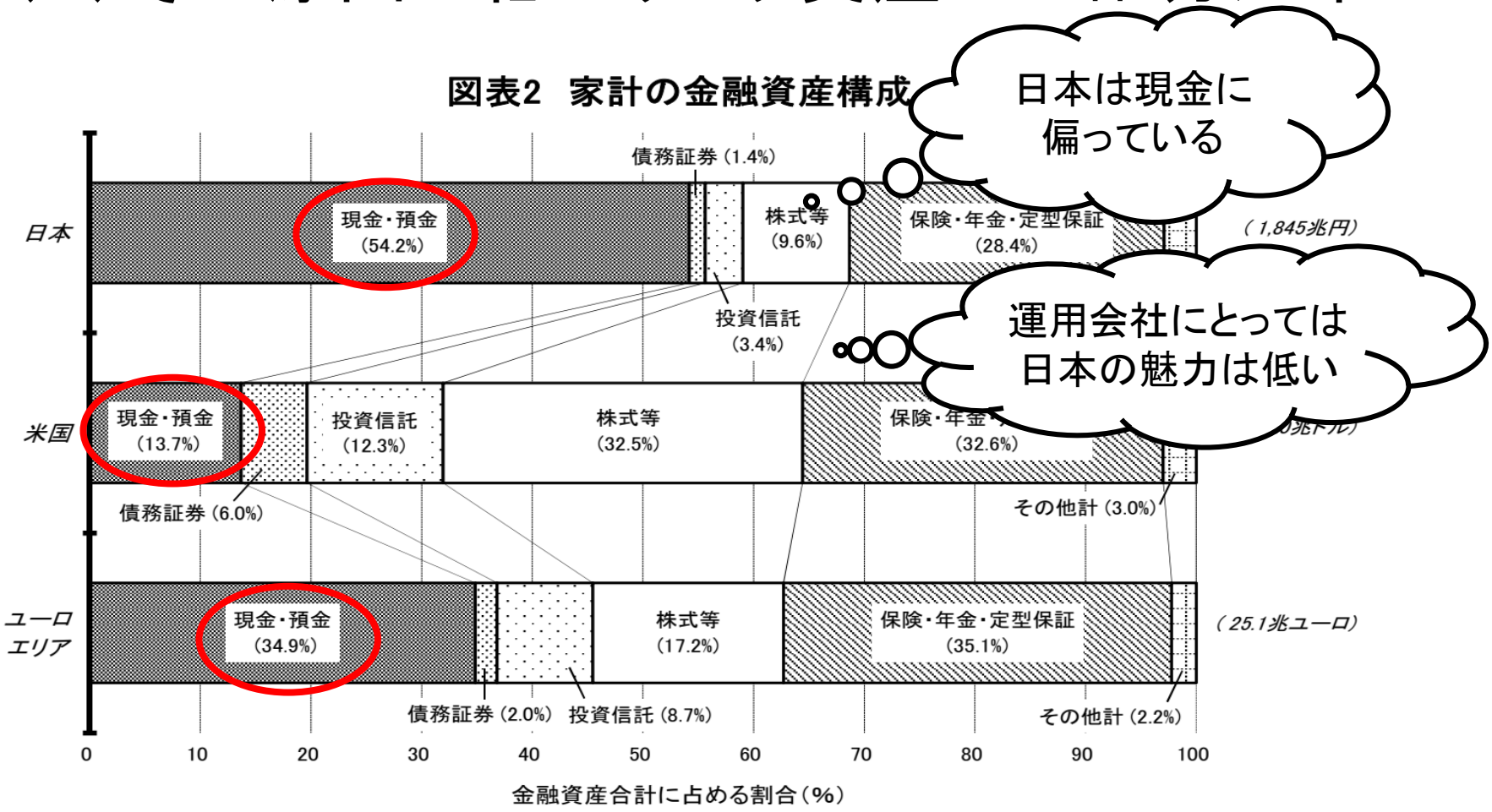
- 1998年からの20年を見ると、米国・英国では、それぞれマクロの家計金融資産は2.7倍、2.3倍へと伸びているが、日本では1.4倍に留まっている。背景として、運用リターンの違いも大きく影響していると分析される。



（資料）　ＦＲＢ、ＢＯＥ、日本銀行より、金融庁作成

出所：金融庁、2019、「人生100年時代における資産形成」

日本の個人金融資産の特徴：
（2）その原因は低いリスク資産への配分比率



*「その他計」は、金融資産合計から、「現金・預金」、「債務証券」、「投資信託」、「株式等」、「保険・年金・定型保証」を控除した残差。

出所：日本銀行、2020、「資金循環の日米欧比較 」

国内市場の活性化に向けての最重要課題

各人のリスク許容度に応じて
リスク資産への配分比率を適正化する必要がある

人生100年時代への準備が出来る。
資産運用ビジネスも活性化する。

しかし、過去、長期にわたって実現してこなかった。

ESG投資で再挑戦
（ESG投資は日本人のメンタリティに合っている。）

さらに、日本企業はカーボンニュートラルで優位に立つ

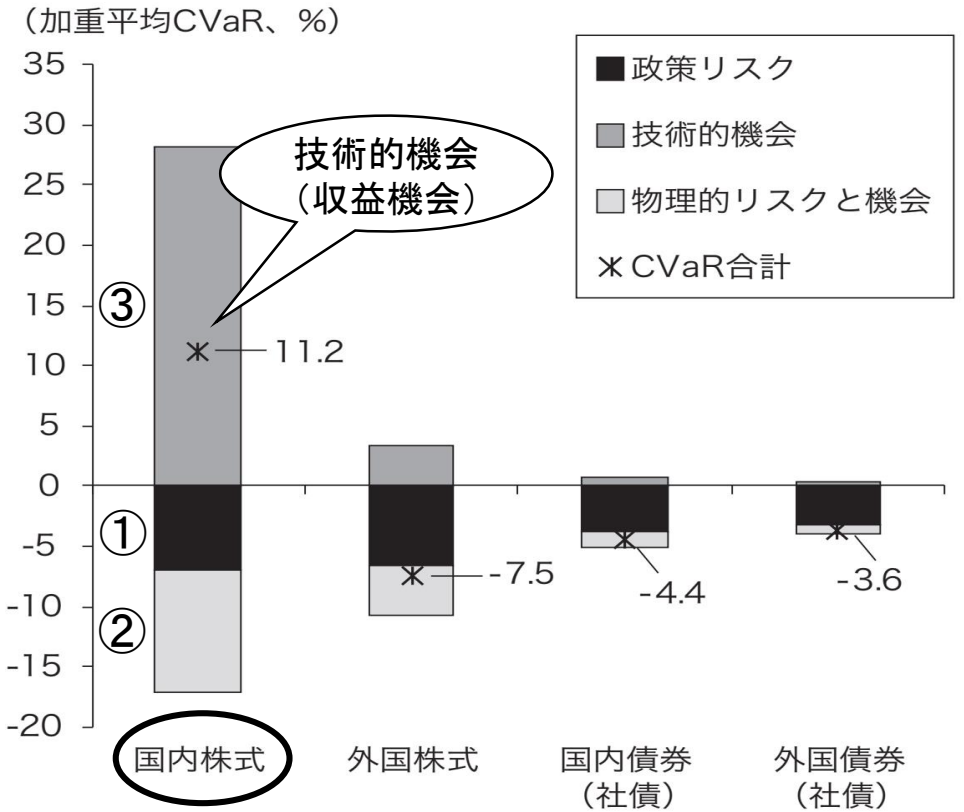
気候変動によるコストと利益

① 政策リスク：政策によって企業が負担するコスト

② 物理的リスク：異常気象などによるコスト

③ 技術的機会：低炭素技術から生み出される利益

GPIFポートフォリオの資産別CVaR
（2℃シナリオ前提）



（出所）Reproduced by permission of MSCI ESG Research LLC©2020

出所：塩村、斎藤、2021、「TCFD提言に基づくGPIFの気候変動リスク・機会分析」、証券アナリストジャーナル、1月号、P.75-84

ESG投資活性化に向けたインフラの整備（例）

- ESG金融機関の認証（東京金融賞含む）や優遇政策による積極的誘致（ベンチャー企業も含む）→アジアのESGファイナンスハブを目指す

- 個人投資家にやさしいESG投資環境の整備
  - 個人投資家向け情報提供プラットフォームの整備。（評価情報も含む）
  - 個人投資家が投資しやすい金融商品の整備：（例）ESG投資用ETFの取引機能の整備（東証）、現在、東証には28本のETF/ETN（インデックスベースで16本）が上場されている。（米国では100本以上が上場されているとされている。）
  - 確定拠出型年金への採用を増やしてもらう。

- 東京都立大学に国際的なESG研究センターを設置し、東京都＋都立大から情報発信を行う。